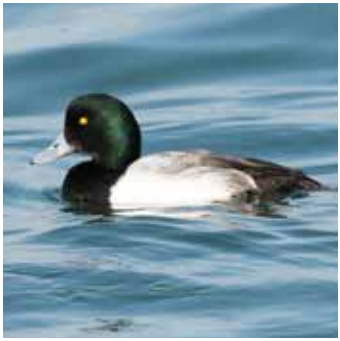


※カモ科の写真はオス（繁殖羽）を使用しています。



### スズガモ

【カモ目カモ科】

10月から3月にかけて三番瀬に飛来するカモの仲間です。キンクロハジロに似ていますが、本種は頭部に飾り羽がありません。海底のアサリなどの貝類を食べ、時折潜水している様子が見られます。



### ヒドリガモ

【カモ目カモ科】

10月から4月にかけて三番瀬に飛来するカモの仲間です。雄は赤みの強い茶色で頭部の正面に黄土色の模様があるのが特徴です。くちばしは全体が灰色です。くちばしは先端が黒いです。草食性が強く、護岸などに生えた藻類を食べます。



### オナガガモ

【カモ目カモ科】

10月から3月にかけて冬鳥として渡来します。名前のとおりオスの尾が長いことが特徴です。オスには首に白い線が入ります。植物食の強い雑食で、護岸の海藻や海底の貝を逆立ちになって泳ぎながら食べます。



### ホオジロガモ

【カモ目カモ科】

11月から3月にかけて冬鳥として渡来します。オスの頭は三角に近く、くちばしの根本に白斑があることが名前の由来です。潜水が得意で、主に甲殻類や貝類などの水生生物を捕食します。スズガモの群れに混ざっていることが多いです。



### ビロードキンクロ

【カモ目カモ科】

11月から3月にかけて冬鳥として渡来します。全身が黒く、オスのくちばしの根本にコブがあり、さらに眼の下に白い線があるのが特徴です。潜水が得意で貝類や甲殻類を主に食べます。スズガモの群れに混ざっていることが多いです。



### オオバン

【ツル目クイナ科】

10月から4月にかけて三番瀬でよくみられる鳥です。体全体が黒色で、白いくちばしが特徴的です。カモ類よりもやや小型ですが、クイナの仲間では大型種です。雑食ですが、三番瀬では主に護岸や岩に生えた藻類を食べます。



### カンムリカイツブリ

【カイツブリ目カイツブリ科】

主に11月から4月にかけて観察できる大型のカイツブリ。夏は名前にあるように冠状の飾り羽があります。冬はあまり発達せず、冠羽も短くなります。潜水が得意で30秒以上も水中で狩りをし、主に小魚を食べます。



### ハジロカイツブリ

【カイツブリ目カイツブリ科】

主に11月から4月にかけて観察できます。冬は頭頂が黒く顔の下部分は白いのが特徴です。また眼は鮮やかなオレンジ色。他のカイツブリの仲間と同じく、水中に潜ることが得意です。潜水しながら小魚や貝類、甲殻類などを食べます。



### セグロカモメ

【チドリ目カモメ科】

冬鳥として沿岸部などに渡来し、三番瀬でもよく見られます。全長約60cmと大型のカモメです。くちばし全体は黄色ですが、くちばし前方に赤い斑があるのが特徴です。冬羽は頭部から胸部にかけて灰色の斑点があります。



### オオセグロカモメ

【チドリ目カモメ科】

北海道や東北地方で繁殖し、冬鳥として三番瀬でも時々見られます。全長約65cmと大型のカモメです。くちばしや脚の色などセグロカモメに良く似ていますが、背中や翼の灰色がより濃い色をしているのが特徴です。



### カワウ

【カツオドリ目ウ科】

全長約80cmの大型の水鳥で留鳥。体は全体的に黒く、エメラルドグリーン目の眼が特徴。数千羽の群れで飛来し、得意の潜水で主に魚を捕って食べます。潜水後、翼を広げて干している姿もよく見られます。鵜飼でよく使われるウミウとは別種です。



### ミサゴ

【タカ目ミサゴ科】

全長約60cmの年間を通して見られるタカの仲間です。海岸や河川周辺で魚などを捕えて生活しています。普段は海の杭などにとまって、獲物を探したり、食べたりしています。運が良いと狩りの様子が見られるかもしれません。

浦安三番瀬  
から見える



野鳥  
鑑子

冬  
編

浦安市 三番瀬 環境観察館

浦安市 三番瀬環境観察館

〒279-0013  
千葉県浦安市日の出7丁目9番1号  
TEL・FAX 047-711-1601  
☑sanbanze@city.urayasu.lg.jp



HP:<https://sanbanze.ces-net.jp/>

施設案内

開館時間 9:00-17:00

- 休館日
- ・月曜日（休日の場合は翌平日）
  - ・休日の翌日（日曜日及び土曜日の場合は翌平日）
  - ・12月29日から翌年の1月3日までの間

アクセス



なぜ三番瀬に野鳥が集まるの？

都市に近い三番瀬。東京湾の一番奥にあるこの海は、冬はたくさん野鳥が集まる野鳥の楽園のうちの一つです。特に多いのがスズガモ。ここ数年の調査では平均4万羽ものスズガモが越冬のために集まります。

それではなぜ、三番瀬にわざわざ集まるのでしょうか？  
一番の理由は餌です。スズガモは1日におよそ210gのエサを食べると推測されていて、これはスーパーのアサリ約1パック分に相当します。4万羽のお腹を満たすと1日あたりアサリ84万匹分の餌が必要計算になります。



↑海底に沈んだスズガモの糞には砕かれた貝殻の破片が



↑護岸の表面に生えた海藻を食べるヒドリガモ。

またヒドリガモなど草食の野鳥にとっても三番瀬は魅力的な餌場です。潮が引いた護岸は一面、海藻が生え、泳がなくても歩きながら餌となる海藻を食べることができます。また、泳ぐことが得意な鳥であれば岩に生えた海藻も、潜って食べる事ができます。

これら三番瀬の栄養の元は、川から流れてきます。山や農業、人々の生活用水など、川を伝って流れてきた栄養が三番瀬の自然を支えているのです。

観察のコツ①  
珍しいカモ？

スズガモの群れにまざって、珍しいカモが紛れていることがあります。注意深く探してみましょう。

観察のコツ②  
強風で鳥がいない時は？

強風で波が立っている時は、正面で見られるスズガモが少ないです。そんな時は風下の南側の堤防へいきましょう。風が弱まる場所にカモの群れが移動しているかもしれません。

